

神はお忘れにならない

2024年6月30日

ヘブル人への手紙 6章9～12節

序：異邦人（ローマ帝国）と同胞（ユダヤ人）の双方からの迫害や攻撃にさらされるユダヤ人キリスト者への警告（4～8節）と激励（9～12節）

警告は恐怖をあおったり、脅す目的ではない ⇒ 正しい認識と理解を促すため
困難な中でも主によって前進

実情は、楽観できない状況（背教・棄教の現実）

パウロの身近でも

①テモテⅠ 1・19～20

ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にいました。その中にはヒメナイとアレクサンドロがいます。私は神を冒瀆してはならないことを学ばせるため、彼らをサタンに引き渡しました。（戒規）

②テモテⅡ 2・16～18

俗悪な無駄話を避けなさい。人々はそれによってますます不敬虔になり、その人たちの話は悪性の腫れもののように広がります。彼らの中にヒメナイとピレトがいます。彼らは真理から外れてしまい、復活はすでに起こったと言って、ある人たちの信仰をくつがえしています。

③テモテⅡ 4・10

デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまいました。

I. 背教に対する厳しい警告（4～6節）

読者がキリストを的確に認識し、堅固な信仰を促されるため
神のことばと聖霊の力、天の御国の祝福を知らされながら、故意に背くなら、再び悔い改めに立ち返らせることはできない
キリストの贖いを否定、不信仰を明らかにし、神の恵みを拒む
彼らは仲間を作る、悪性の疫病のように蝕んでいく

II. 神の義と恵みに信頼して前進せよとの激励（9～12節）

神の義の現れ

①罪への厳粛なさばき

②ご自分に従う聖徒の奉仕への報い

厳しい警告の前提 = 信仰者のさらに良いこと・救いにつながる確信

III. 神の賜物

(1)神はすべてを知っておられる

(2)神は不義（不公平）ではない、公平な方

(3)神は罪人を救いに導き、それぞれに賜物を与えて神と人ともに仕えるものとされる

(4)神はお忘れにならない

①罪 ⇒ 悔い改めた罪を赦し、忘れ去ってくださる

②聖徒たちの善きわざ ⇒ いかにかさいな小さな行いでも覚えておられ
↓
報いてくださる

働き・愛

聖徒たちにこれまでも、今も仕える
神の御名のために愛を表わす

↓
自分への賞賛・評価のためではない
信じている神が崇められ、ほめたたえられるため

IV. 今後の歩みへの切望

(1)一人ひとりが同じ熱心さを示す（よきわざへの）

(2)最後まで、希望（救いの完成・神の報い・天の御国・永遠のいのち）を持ち
続ける

(3)怠惰にならず、約束のものを受け継ぐ人に倣う（by 信仰と忍耐）

ヘブル 11・1、6

信仰は望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。……信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自身を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

ヘブル 10・35～36

ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

V. 結び

(1)厳しい警告と力強い激励の両方が聖徒たちには必要である
特に苦難の中を通っている場合

(2)自分の心がどういう状態か、不断の自己吟味をする
心の思い → 口のことば → 手足の行動

(3)神は私たちの小さな信仰や愛のわざをみておられ、知っておられ、喜んで
くださり、報いてくださる

(4)自分の罪の強大さを知らされる ⇒ 悔い改め・主への信仰によって赦され
る神の恵みの甚大さを知らされる

大きな罪へのさばき < 小さな奉仕への報い

(5)現在の愛と信仰の奉仕を自覚、継続する ⇒ 約束のものを確信 ⇒ 信仰
を守り通す（最後まで） ⇒ 救いの完成

(6)熱心な信仰生活（希望と確信）とみことば（教理）は一体である
車の両輪、両方とも必要、バランスが大切 ⇒ 健全な信仰者